

大災害の経験を風化させることなく、最善の防災対策を



スポーツコメンテーター

奥野 史子 氏 (おくの ふみこ)

京都市出身。1992年バルセロナオリンピック、シンクロナイズドスイミング銅メダリスト。現役引退後はスポーツコメンテーターとして活躍。ご主人は北京オリンピックの陸上銅メダリスト朝原宣治氏。京都市教育委員。文部科学省中央教育審議会委員。



前 国土交通省 近畿地方整備局長

上総 周平 氏 (かずさ しゅうへい)

堺市出身。京都大学工学部卒業、京都大学大学院工学研究科修了。建設省入省後、内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(地震・火災対策担当)、河川局防災課長、土地・水資源局水資源部長を経て、2009年7月より2012年8月まで近畿地方整備局長。

迫りくる東南海・南海大地震。 命を救う道はありますか？

近畿では、東南海・南海地震の発生が迫っています。しかし、防災のインフラ整備は万全とは言えず、特に道路はつながっていないネットワークが多く存在し、災害時の救援・復旧を妨げる要因になりかねません。今回の対談では、「防災対策には道路整備が重要」とおっしゃる近畿地方整備局長(対談時)・上総周平氏と、3児の母でもあるスポーツコメンテーター・奥野史子氏をお招きし、行政の長と市民という立場から、これまでの大災害を教訓に最善の防災対策はどうあるべきかについて語り合っていました。



平成23年9月の台風12号による豪雨で形成された天然ダムによる被害状況(和歌山県田辺市熊野)23.9.11

毎年起こる大災害。日本のどこで発生してもおかしくない

上総 ●奥野さんは京都のご出身とうかがいましたが、私も学生時代を京都で過ごしました。

奥野 ●京都は本当にいい町です。歴史が息づいている感じで、通りを歩くとあちこちにお地藏さんがあつたりします。小さい頃からお地藏さんを拝むようにと親にしつけられましたので、私も子どもに「お地藏さんがあつたら拝みなさい」と言ったんですが、「ひとつひとつ拝んでたら、なかなか前に進めへん」って(笑)。

上総 ●もっともですね(笑)。

奥野 ●京都の良い点には地域の結びつきが強いこともあります。いまま京都に住んでいますが、何かあったらご近所と声をかけ合ったりして、とても心強い。ただ、他所の人が引っ越してこれたら、なかなか地域にとけ込めないということも。でもそこは郷に入れば郷に従えて、がんばって早く慣れていただいたら本当に住みやすい所です(笑)。

上総 ●京都は元々、地震・台風などの自然災害が少ない地域ですが、その代わり、木造家屋や

お寺が密集しており、火事には気をつけなければならなかった。そういう防災上の必要からも地域の結びつきが強くなったのかもしれない。

奥野 ●ありがたいことに自然災害は少ないですね。

上総 ●戦後最大の昭和28年13号台風や昭和34年の伊勢湾台風^{※1}以来、京都はずっと平和な日々が続いています。でも、全国的に見ると大きな災害は毎年どこかで発生しています。京都市内で水害は珍しいかもしれませんが、全く起こらないとは言えません。

奥野 ●脅さないでくださいね(笑)。でも本当に何が起こっても不思議ではない。最近、竜巻も発生していますし、気象がおかしくなっていますから。

上総 ●1時間の雨量で50ミリはものすごい大雨のはずでしたが、最近では100ミリを超えることもよく起きています。地球温暖化も影響しているようです。「うちは大丈夫」と気を緩めず、注意するに越したことはありません。



※1 伊勢湾台風
昭和34年9月、台風15号が潮岬に上陸。紀伊半島から東海地方を中心に大きな被害を及ぼした。(写真は水没した集落)

台風12号による被害状況



災害直後の天然ダムの様子(奈良県五條市赤谷)23.9.11

紀伊半島大水害からの復旧への取り組み



工事用道路の造成(奈良県御迫川村北股)23.10.3



ヘリによる資材搬入(奈良県十津川村栗平)23.11.2



紀伊半島大水害の復旧の記録と取り組みの様子は、しびる臨時増刊号に詳しく記載されています。

命がけで道路の復旧にあたった建設業界

上総●昨年近畿を襲った台風12号は熊野川流域ではあの伊勢湾台風の雨量を超え、大きな被害を出しました。紀伊半島大水害^{※2}と言いますが、覚えていらっしゃるでしょうか？

奥野●もちろん覚えています。出産2ヵ月後で子どもにかかりきりの時期でした。幸い京都市内はそれほど大きな被害はなかったのですが、報道で紀伊半島に被害が出ているのを知って、「同じ近畿で大変なことが起きているのに、ああ、私には何もできない」と無力感にとらわれました。道路が寸断されて、たくさん地域が孤立しましたね。

上総●とにかく、救援に行こうにも復旧に行こうにも道がない。災害時に求められるインフラは電気やガス、水道などもそうですが、何より切実なのは道路です。災害現場に通じる道がない中、建設各社の方々はそれこそ生命の危険を賭し

て道路の復旧にあたられました。

奥野●テレビの前の私達は詳しい事情を知らないで、「もっと早くあの被災地なんとかならないの?」と勝手なことを思っていました。自衛隊の人達りががんばられていましたね。

上総●あれだけの山間地で道がないと、かなり過酷な作業となります。災害時には自衛隊員の活躍がクローズアップされますが、道路の復旧にあたった建設業界の方のご苦労も大変なものがあります。しかし、道路も自衛隊が復旧作業をしていると勘違いしている人は多いようです。自衛隊の方も作業をされることはありますが、建設機械を動かすなど大半は建設業者でないとできない作業です。被害の生々しい危険な状況の中で昼夜を問わず作業をされますが、一般に伝わっていないのはPR不足でしょうか。



※2 紀伊半島大水害
平成23年9月の台風12号による豪雨で、奈良・和歌山・三重の3県では死者・行方不明者84人、倒壊家屋3,200戸という大きな被害となった。



出水状況の写真
旧熊野川大橋から水があふれ出し市内で浸水被害(9月4日6時頃撮影)資料提供:近畿地方整備局

台風12号被災DATA

●人的被害 (平成23年12/15現在 消防庁発表数値)

	死者	行方不明者	重傷者	軽傷者
三重県	2	1	5	10
奈良県	14	10	5	1
和歌山県	52	5	5	4
三県合計	68名	16名	15名	15名

●住家被害数 (平成23年12/15現在 消防庁発表数値)

	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
三重県	81	1,076	70	700	832
奈良県	48	62	15	13	37
和歌山県	239	1,742	90	2,880	3,147
三県合計	368戸	2,880戸	175戸	3,593戸	4,016戸

●台風12号による総雨量と出水概要

奈良県 上北山村	1,800mm超
奈良県 大台ヶ原	2,400mm超
和歌山県 田辺市熊野	1,300mm超

●土砂災害発生件数 (平成23年12/31現在 水管理、国土保全局砂防部調べ)

	土石流等	地すべり	がけ崩れ	合計
	59件	16件	30件	105件

●道路被災 (通行止力所)

	奈良県	和歌山県	合計
国道	19	44	63力所
県道	35	106	141力所
合計	54力所	150力所	204力所

スポーツで心の復旧をサポートしたい

奥野●近畿地方整備局でも被災地への応援に行かれるのですか？

上総●テックフォース(緊急災害対策派遣隊)^{※3}を派遣します。テックフォースとは土木技術・通信・災害査定などスペシャリストの集まりです。東日本大震災のときには地震発生後すみやかに現地入りし、被害状況を調査して早期に応急復旧をすることができました。排水ポンプ車による排水作業や衛星通信車での通信手段の確保など、さまざまな点で評価をいただいています。この体験は今後発生が予想される東南海・南海地震の対策に生かすことができると考えます。奥野さんも被災地の支援活動をされていると聞きました。

奥野●スポーツ選手の団体、アスリートネットワーク^{※4}の仲間と支援に関わっています。大震災が起こったとき、多くのアスリートは「こんなときにスポーツをしていいのだろうか?」ということでもまず悩み、「試合や海外遠征に行っている場合?一刻も早く助けに行くべきではないのか」と、つらい思いを抱えました。そんな中、メンバーである陸上の為末選手や主人(朝原宣治氏)など多くのアスリートが立ち上がって、義捐金を集めることから始めました。被災地へのスポーツ慰問では子ども達と一緒に陸上やバレーボールをやり、「スポーツしている瞬間はつらいことを忘れられ

て楽しかった」という感想をもらったそうで、私達にもできることがあると励まされました。被災地の方はつらい体験をしてこられましたが、それを超えたときにすごいパワーが出る。スポーツはそのパワーを引き出すことができるとあらためて感じました。

上総●災害に遭うのはつらいことですが、どうにか立ち上がって、体を動かしたり音楽を聴いたりして喜びを得ようとするのはいいことですね。奥野●私一人ではアクションを起こせませんでした。ネットワークを組めば何かができる。日頃からの人と人とのつながりが、災害時では重要になってくるのですね。

上総●被災地に行かれたことはありますか？

奥野●主人は行きましたが、私は出産前後でまだありません。もうすぐ1歳になるのでそろそろ行けるかなと思っています。

上総●是非行ってください。継続して支援することが大事ですから。

奥野●阪神・淡路大震災のときには近い存在の人が多く被災しており、長い間、孤独感が消えなかったり、精神的に不安定だったりした方が多かったと聞いています。東北も基本的なインフラが整った後は、我々アスリートがサポートする番。私は元スポーツ選手として恩返しをしていく活動をやっていきたいと思っています。



※3 テックフォース(緊急災害対策派遣隊)
大規模自然災害の発生時、被災地で被害状況の調査、被害の拡大防止、早期復旧に関する地方公共団体等の支援を行う。隊員は通常業務の傍ら、非常時に備えてスキルアップをはかっている。平成20年設置。



※4 アスリートネットワーク
日本のトップアスリート達が自主的につながる団体。次世代の子ども達に経験を伝えることやアスリートの支援などを目的として、バレーボールの柳本監督や陸上の朝原氏らが声をかけ、平成22年結成。サッカー、卓球、テニス、水泳、柔道、大相撲などさまざまな競技からの参加がある。詳細はWEBサイトへ。
<http://www.athlete-network.jp/>

道路は生命線。災害に強い

高規格道路は、命の道です



被災直後の仙台東部道路 仙台若林JCT～名取IC間 出典先:国土交通省東北地方整備局

下げ、到達時間を遅らせることで被害の軽減に有効ですので、和歌山県海南市で浮上式の津波防波堤^{※7}の工事に着手しています。将来、大地震が起こったとき、大震災のあの情報が生きた、みんな自分から主体的に避難でき

た、となるように一人ひとりの防災意識をもっと高めないとはいけません。

※7 浮上式の津波防波堤
平常時は航行船舶の邪魔をしないように海底に格納。津波来襲時に海面に浮上する。

どんどん減る予算。防災の生命線も削られている？

上総●この夏、ロンドンオリンピックが開催されますが、シンクロの見通しはいかがですか？
(※編集注:この対談は6月20日に行われました。)

奥野●なかなか厳しいのでは？ お金さえあれば強くなるわけではありませんが、スポーツ界でも予算がなかなかつきません。国家が予算をかけて十分な施設とコーチ、スタッフを準備してオリンピックのメダルを着実に増やしている国もありますが、日本はまだまだ手弁当で強化練習しているような種目が多いです。限られた予算の中でどうやって日本のスポーツを育成していくかというのは難しい課題です。例えば韓国は、メダルが獲れそうな競技に予算をつぎ込んでピンポイントで強化しています。日本は全競技にまんべんなく、というやり方。目的が違いますから、どちらが良いと一概に決められませんが、確実にメダルを狙うのであれば、韓国方式が有効かもしれません。

上総●公共事業も予算がどんどん削られて、非常に厳しい状況です。整備しなければならない防災インフラは近畿にも数多くありますが、限られた予算の中でどの計画を進めるか、という選択と判断を迫られています。

奥野●道路でも、この区間とこの区間は完成しているのに、その間は未完成というところが多くて、全線開通しないように見えます。

2つの震災の教訓を生かし、必ず来る大地震に備える

奥野●ところで、今回の震災に阪神・淡路大震災の教訓は活かされたのでしょうか？

上総●もちろん、さまざまところで生かされています。阪神・淡路大震災のときは高速道路が倒れて、その下の国道43号が半月ぐらい通れませんでした。

奥野●倒れた映像は衝撃的でした。救援物資を送るのも苦労しました。

上総●阪神・淡路大震災の教訓から、基準を見直して全国の橋を補強しました。これが功を奏して東日本大震災では倒れることはありませんでした。学校の耐震化も進んでおり、校舎が避難場所となっていますが、これも教訓のひとつです。

奥野●私は京都市教育委員会の委員を務めており、その辺りは気になるところです。全国的にはどうかはわかりませんが、京都市の学校の耐震化率はほぼ100%です。

上総●住宅の耐震改修や橋げたの落橋対策も

行っています。阪神・淡路大震災では建物の倒壊による被害が大きかった。しかし、東日本大震災ではほとんどが津波の被害です。

奥野●この教訓を今後はどう生かすかですね。津波の最大の対策はとにかく逃げ場を確保することですよね。

上総●そうです。逃げ場をつくることが大事で、一時避難場所として高速道路の利用も着目されています。今回の震災で高速道路に避難して助かった方は多く、仙台南道路では盛り土になっていたので逃げ場になったそうです。

奥野●高速道路は防潮堤^{※5}の役割もするんですね。震災後、主人は宮城を回っており、仙台は高速道路を境にして全く違う街になっていて驚いたと言っていました。

上総●福島県の国道6号でも盛り土が防潮堤となって津波の浸水を防ぐなど、防災対策での道路の役割が広がっています。

近畿ではここ30年以内に、南海トラフ^{※6}沿いに東南海・南海地震が確実に起こります。私は内閣府で地震の担当だったことがあり、地震や津波の規模を計算していました。南海トラフ沿いの地震は100年～150年に一度発生しており、最近では昭和19年～21年に起きていますから、次の大地震の発生が迫っています。

奥野●大地震はいつ来るかわからないんですね。いま何をすべきでしょうか？

上総●防災対策としてハード面ではまず道路整備ですね。それに津波対策。紀伊半島の港の耐震化を進めています。防波堤は津波の高さを

※5 高速道路が防潮堤

仙台市では海岸から4kmまで津波が達したが、盛り土構造の仙台東部道路が防潮堤の役割となり、市街地への津波や瓦礫の流入が抑えられた。この道路には約230人が避難して命が救われている。

※6 南海トラフ

四国沖の海底にある深い溝(トラフ)のこと。大規模な地震発生帯。



通行量の少ない“ガラガラ道路”は

無駄遣いだと思っていました

無料ですよ。日本の高速道路は通行料金が
高い。この差はどうしてできるのでしょうか？

上総●日本では、建設費を回収するために通行
料金を徴収します。建設費を受益者に負担して
もらう発想です。それに対し、外国のように通行
料が無料というのは、国民全体で負担するとい
う考え方です。

奥野●通る人も通らない人もまんべんなく、です
ね(笑)。どちらにしても建設費はかかりますから。

上総●ただこれまでは、道路をつくっても通行量
が少ないと、建設費が回収できない赤字道路、
という発想がマスコミや国民にありました。

奥野●私も以前は、通行量の少ない“ガラガラ道
路”は無駄遣いだと思っていました。

上総●これまでのような経済性だけで道路を評
価するというのは、決して正しい見方ではありま
せん。平常時は通行量が少なくても、その道路
がないと地震・台風などの災害時に救急車や緊
急車両、救援物資の輸送車両が通れないとい
う事態になりかねません。道路は生命線。災害
に強い高規格の道路は、まさに命の道です。第
二京阪道路にしても開通によって救急車の到
着時間が大幅に短縮された^{※8}という実績があり
ます。

とぎれとぎれの高速道路、ミッシングリンクの早期解消を

奥野●道路は便利だけではなく、災害の多い
日本ではとても重要なのです。

上総●東日本大震災では海岸沿いの道路が随
分ダメージを受けましたが、盛岡や一ノ関など内
陸部の道路は被害が少なかったのが、この道路
を軸にして海岸方向に道を切り開きました。「くし
の菌作戦」と名付けられています。これで緊急
輸送路の早期復旧ができ、各地域への救援物
資などの輸送に貢献できました。道路がある地

域とない地域では、さまざまな面で差ができます。
この震災で道路整備の重要性が強く印象づけ
られたと思います。

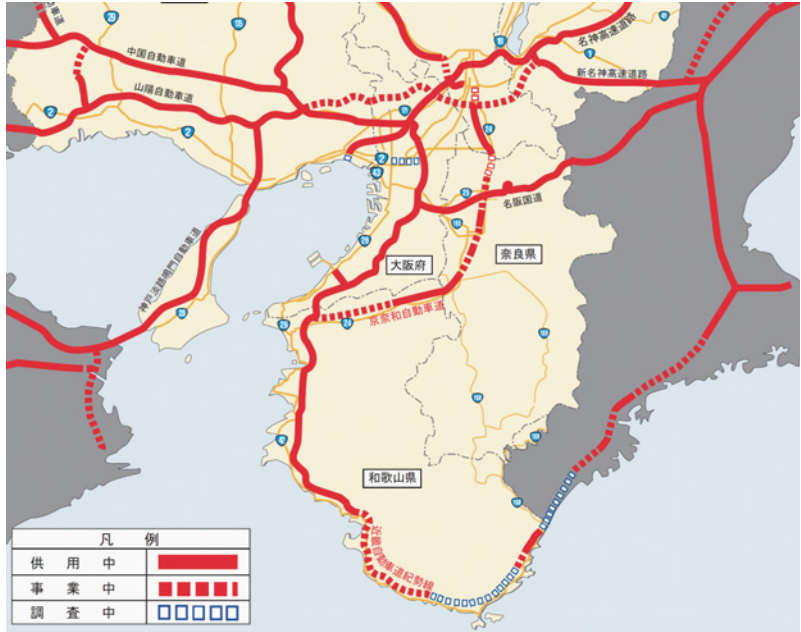
奥野●近畿の道路はぶつ切り状態のようです
ね。ときどき和歌山県の串本までダイビングに行き
ますが、京都からだと車で6、7時間もかかります。
東京に行くより遥かに遠い。こんな状態で防災対
策は大丈夫ですか？

上総●近畿はミッシングリンクと言われる、つな
がっていない道路が多く残っています。真の防災
対策を行うためにも、とぎれている道路をしっかり
と整備することが急がれます。東南海・南海地震
で大きな被害が予測されている紀伊半島では、
高速道路が和歌山県の田辺までしか開通して
いません。そこから約40キロ離れた、すさみ町ま
で開通するにはあと4、5年かかり、その先の串
本、新宮市から熊野市までにいたっては具体的
な計画はまだありません。

奥野●道路ネットワークをぜひとも早く整備して
いただきたいですね。災害があると、多くのものに支
えられていたことにあらためて気付かされます。

上総●インフラは基礎体力で、生活の足腰のよう
なものです。食事や音楽を楽しもうにも、足腰が
弱ければできませんからね。

奥野●インフラが不安だと、スポーツを楽しむ気に



近畿にはまだまだつながっていない高速道路が多く残っている 出典:近畿地方整備局資料



もなれません。大震災発生時、トップアスリート達
でさえスポーツをやめようとしたから。

上総●そうですね。これからも市民の命と安全を
守るために頑張っていきますので、ご理解とご協
力をお願いします。ところで、地震から身を守るた
めには、一人ひとりの備えも非常に大事なのです
が、奥野さんは何か防災対策をされていますか？
奥野●今回の震災のときにちょうど家を建ててい
ました。基礎が終わったぐらいで震災があって、
地震に対する備えを加えようと、家具をつくり付け
にしました。食料の備蓄もある程度はしています。
神戸の震災の体験談からガラスが割れて歩けな
かったと聞いたので、靴をベッド付近に置いて寝
ています。避難場所や連絡の取り合い方も家族
間で決めています。

上総●素晴らしい。国民全体でそのようなしっか
りとした備えをしてほしいですね。地震だけでは
なく、洪水・土砂災害など大きな災害は毎年どこ
かで起こっています。その地域にしてみれば、まさ
か起こるわけない、という災害です。だから、「うち
は大丈夫」と思わず、防災に取り組んでほしい。

奥野●私達ひとりひとりができる限りの備えをする
ことが大切ですね。災害を必要以上に恐れること
なく、目をそむけず、危機感をもって備えることで、
本当に豊かな暮らしを実現できると思います。
スポーツを楽しむのも、子育てが落ち着いてでき
るのも、子ども達が将来の夢を語れるのも、安心
して暮らせる環境があるからです。安全なまちづ
くりをどうぞよろしくお願いします。

※当対談は2012年6月20日に行われました。

東南海・南海大地震まで時間的な猶予は
残されていません。どの地域でも安心して
暮らせるように、“命の道”ともいえる災害
に強い高規格の道路を早急に整備する必
要がある、ということを今回の対談で強く
確信しました。

